

令和 3 年 6 月 22 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04193

研究課題名(和文) 精神障害やアディクションのある養育者とその子どもの支援に関する研究

研究課題名(英文) Research on support for caregivers with mental disorders and addictions and their children

研究代表者

森田 展彰 (Morita, Nobuaki)

筑波大学・医学医療系・准教授

研究者番号：10251068

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：精神障害や依存症のある養育者やその子どもの困難を明らかにし、支援方法の開発を目的として、児童虐待事例の調査、精神医療機関の調査、精神障害等のある親に育てられた人のWEB調査を行い、次の所見を得た。虐待を行う親に精神障害等がある事例では、孤立、劣悪な住環境、貧困等の背景が養育困難につながっていることが示された。一般の精神障害のある親の多くの人々が、睡眠障害、感情制御の問題、子育て支援を受けることの困難が生じていた。精神障害の親の子どもの多くは、親の障害の説明を受けておらず、精神的な負担を受けていたことがわかった。以上の所見をもとにそうした親子に基本的な情報を提供する小冊子を作製した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

精神障害や依存症のある親では、精神症状や服薬の影響、生活の困難などが養育を難しくしており、それが深刻な場合には虐待に至る場合がある。また、その子どもは、ヤングケアラーとして過度な役割を求められ、成人後に精神障害を生じる場合があるとされてきた。今回の研究では、これまで十分に明らかになってこなかった、こうした親子の実態について、児童相談所や精神医療機関の調査やWEB調査など多様な視点を持った調査で、明らかにできた。また、そうした親子が自分たちの問題を理解し、自分や相手を責めることなく適切な対応について示すツール(小冊子)を作成できたことも、今後の支援を行う上での成果であると考えている。

研究成果の概要(英文)：In order to clarify the difficulties of caregivers with mental disorders or addictions and their children, and to develop support methods, we conducted a survey of child abuse cases, a survey of psychiatric institutions, and a web-based survey of people who were raised by parents with mental disorders, etc. The following findings were obtained. (1) In cases where the abusive parent has a mental disorder, isolation, poor living environment, poverty, and other factors were shown to contribute to child-rearing difficulties. (2) Many parents with mental disorders in general experience sleep disturbances, emotional control problems, and difficulties in receiving parenting support. (3) Many of the children of parents with mental disorders did not receive an explanation of their parents' disability and were mentally burdened by it. Based on the above findings, we prepared a booklet to provide basic information to such parents and their children.

研究分野：精神保健学

キーワード：精神障害のある養育者 親の精神障害が子どもに与える影響 ヤングケアラー 児童虐待

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

吉田・長尾（2008）によれば、国内外の先行研究から虐待する親の 30～70%に精神障害が見られるとされている。子育て中の親にとって、精神障害やアディクションがあることは、うつや幻聴あるいは飲酒欲求のような精神症状の直接的影響、服薬の影響、生活の困難などの間接的影響が養育を難しくしており、それが深刻な場合には虐待に至る場合がある。こうした親子の問題の実態やニーズについては、世界的には研究がされているが、日本では事例研究が中心で系統だった研究は少ない。

こうした親子への具体的な支援としては、土田由紀子が立ちあげた支援団体「親&子どもをサポートする会」を通じた養育者の支援・研究およびダルク女性ハウスの上岡らや森田の薬物依存症の親への支援の研究、研究協力者である北野陽子・細尾ちあきの絵本による子どもへの説明の実践など先駆的なものはあるが、多くの精神医療や子育て支援・児童福祉の領域で用いることができる支援ツールやプログラムは乏しい状況である。

2. 研究の目的

精神障害やアディクションのある養育者はその症状や行動上の問題や生活困難などのために養育に困難を抱え、子どもはその影響を受けてしまう場合があることが指摘されているが、わが国では系統的な調査が十分行われていない。またこうした事例では精神医療（アディクション援助を含む）と子育て調査支援の両面からの支援を組み合わせる必要があるが、2つの領域を連携させる支援方法が確立していないことが指摘されている（松宮, 2008）。そこで本研究では、精神障害やアディクションのある養育者の調査（精神医療やアディクション相談機関・児童福祉機関での調査およびWEB調査）を行い、その困難やニーズを明らかにした上で、精神医療や子育て支援の両面を取り上げる支援プログラムを作成し、その効果について確かめることを目的とする。

3. 研究の方法

親の精神障害やアディクションが養育や子どもに与える影響を調べ、またその支援方法を開発するために、以下の4つの研究を施行した。

（研究1）児童相談所に通告された子ども虐待事例の調査：精神障害のある全国の児童相談所に平成25年の4から5月に通告された虐待事例のうち主たる虐待者が父や母である事例で十分な情報が得られた7,418人を対象として、そのうち主たる虐待者に精神疾患を有していた事例を「精神疾患あり群」とし、それ以外の「精神障害なし群」の違いを分析した。また、主たる虐待者または従たる虐待者に、アルコール依存症のある事例（AL群）とこれがない群、薬物依存症の事例（DR群）とこれがない群の比較を行った。更に、平成30年度における全国児童相談所の調査データの分析を加えた。このデータは、虐待の可能性のある事例6300例のうち、親の精神障害の情報や基本的なデータに欠損のある事例を除いた4532例を分析対象とした。このうち、精神障害やその疑いがあるとされた事例は1176例（25.9%）であった。平成30年度のデータでは、精神障害の種類を詳しく聞いており、精神障害の診断による違いを詳しく分析した。

（研究2）精神科医療機関で治療を受けている人で子育て経験のある人の調査：子育て中又はその経験のある精神科医療機関を受診している120名の精神障害のある人を研究対象者とした。調査項目は親子関係診断調査（FDT）、K6質問票（精神健康度を測る質問票）、子育て困難につながる精神症状項目、子育てに困ったときの相談先利用状況項目、子育てに困ったときの相談先の有用状況項目、サポート利用困難項目、対象者及び子どもの基本属性の回答を求めた。

(研究3) 精神障害やアディクションのある親に育てられた人のWEB調査: 親の精神疾患を経験した子どもたちが、子ども時代に家庭環境に受けた影響やどのような支援を望んでいたかを調べるために、精神障害やアディクションのある養育者に育てられた方(調査時は成人)に対する無記名式のWebアンケート調査を行った。対象は、子ども時代に親の精神疾患を経験した20～65歳の成人であり、Eメール、SNS、ウェブページのリンク、知人に尋ねるなどにより被験者を募る「スノーボールサンプリング」の方法をとった。調査は2019年9月の1か月間行われた。調査内容は、基本属性、家族構成、養育者が持っていたところの病気や依存症について尋ねる項目、経験した困難(子ども時代に感じていたこと、考えていたこと)、実際に受けた支援、役に立った支援(知覚されたサポート)、当時してもらいたかった支援、成人後の精神的健康状態などである。

(研究4) 支援ツールの開発: 研究1-3をもとにして、精神障害を持ちながら子育て問題に苦勞している養育者に対する支援ツール(精神障害が子育てに与える影響やそうした状況に対応する方法について情報提供しながら、必要な支援について話し合うことを助ける資料とその使用法の手引き)の叩き台を作成した。

4. 研究成果

(研究1) 児童相談所に通告された子ども虐待事例の調査

「平成25年度児童虐待相談ケース」の2次分析では、精神障害あり群に入ることに関連する要因を多重ロジスティック回帰分析で調べたところ、虐待者の年齢、虐待者が母親であること、虐待種が心理的虐待であること、ひとり親家庭、孤立、劣悪な住環境、経済的な困難等が有意に関連していた。また、親の精神障害の有無と子どもの症状の関係を調べたところ、精神疾患があることと関係して、多くの子どもの精神症状・問題行動の発生率が高いことが確かめられた。また主たる虐待者または従たる虐待者に、アルコール依存症のある事例(AL群)365例(4.9%)、薬物依存症の事例(DR群)は111例(1.5%)だった。親にアディクションのある事例の特徴を調べるためにAL群とDR群は、問題がない群よりも、経済的な困難、不安定な就労、ひとり親家庭、DV、育児疲れが有意に多い割合であった。被虐待児の症状では、AL群は非AL群より対人関係の問題、低い自己評価、感情不安定等が有意に高い割合で、DR群は非DR群よりも多動、望まれない出生が有意に高い割合であった。児童相談所の対応としては、AL群・DR群は、それがない群よりも虐待の重症度が高いと評価された。親の依存症は虐待の発生や重症化に影響しており、児童福祉機関と依存症治療機関が連携して介入する手法を確立する必要があると考えられた。

「平成30年度児童虐待相談ケース」の2次分析では、精神障害やその疑いがあるとされた事例は1176例(25.9%)であった。精神障害の種類としては、感情障害10.5%が最も多く、次いでアディクション3.8%であった。精神障害のある群は、それがない群に比べ、付随する貧困や就労や生活の問題などがあることが難しいことが示された。支援・介入においては、精神障害のある群の方が、それがない群と比べて、児童相談所の面接回数が多く、一時保護や要保護児童対策地域協議会の実施率が高く、児童福祉士により改善の効果が十分でないと評価された事例が多かった。診断別にみると、一時保護になることに関するロジスティック回帰分析を行ったところ、有意な関連を示した診断名(オッズ比)は、パーソナリティ障害(3.0)、知的障害(2.3)、アディクション(2.2)、感情障害(1.5)、不安障害・身体表現性障害・PTSD(1.8)であった。精神医療への受診につながり場合は1割に留まっていた。以上から、精神障害の有無や分類の評価をもとに精神医療や保健福祉などを含めた包括的で継続的な支援がさらに必要であると考えられた。

(研究2) 精神科医療機関で治療を受けている人で子育て経験のある人の調査

調査協力を得られた対象者 120 名のうち子育て困難となる症状として「睡眠問題」「感情のコントロール」は 71.7% で一番多く、他には「考えがまとまらないこと」「仕事ができないこと」による経済的不安」「緊張感・焦燥感」などが半数以上の人に挙げられた。子育てに困ったときに相談することについて尋ねた結果、相談をするのは、医療機関の主治医が 72.3% と一番多く、次いで自分の親が 45.4%、友人 39.5%、子どもの教育機関の先生 39.5%、市町村の児童福祉課は 30.3% 程度であり、地域の子育て支援サービスの利用は比較的少なかった。サポート利用の障壁は、経済的なこと 76 名 (65.0%)、家族の反対 32 名 (27.4%)、どこで手続きしたらよいかわからない 82 名 (70.1%)、サポート事業は知っているがどういふことをしてくれるか内容がわからない 78 名 (66.7%)、家族以外の人から家に来るときつくなる 82 名 (70.1%) ことが、サポート利用の障壁と回答した。以上から、精神障害のある方の養育困難では、睡眠や感情のコントロールの難しいことや考えがまとまらないこと、経済的問題など純粋な症状そのもののみでなく、生活リズムや気持ち・考えをうまく整理できないことや経済的問題などの不安があることが確かめられた。さらに子育てに困っても、地域の子育て支援はあまり用いられておらず、その要因として、サービスの知識がないことや経済的な問題に関する不安、家族以外の人に話すことの難しさが挙げられていた。精神障害のある方の子育てに対して、症状のみでなく生活全体の評価を行い、訪問等を用いてより積極的な支援を提供できる体制が必要であると考えられた。

(研究3) 精神障害やアディクションのある親に育てられた人の WEB 調査

十分な回答のあった 344 例の分析を行った。子ども時代に受けた影響として半数以上の回答者が肯定した項目は、「こどもらしくいられなかった」「この世からいなくなりたいと思った」「暴言暴力を受けた」「自分自身もこころの病気や依存症になった」「友達ができにくかった」であった (図 1 参照)。

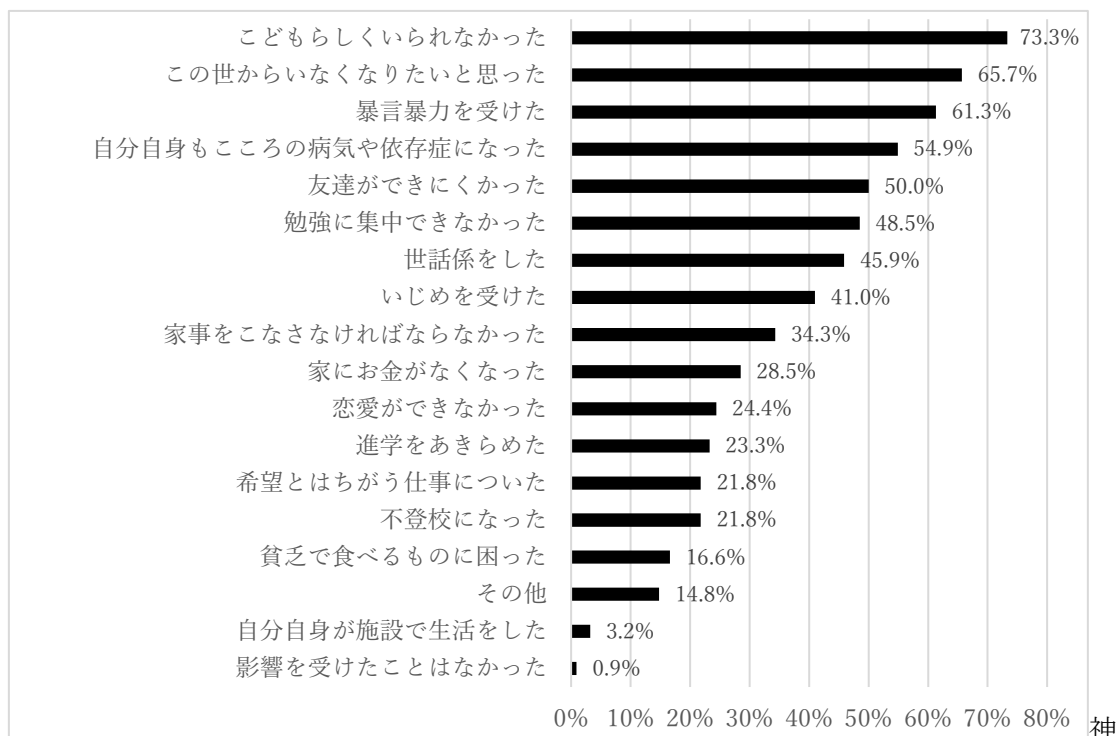


図 1. 子ども時代に受けた影響 (N=344)

回答者自身に精神的問題が生じた 189 例 (精神的問題あり群) の精害の種類としては、

気分障害が最も多かったが、その他に不安障害、統合失調症、パーソナリティ障害、摂食障害、アディクションを含む多様な障害が生じていた。この精神的問題あり群となし群と比べると、親を世話する責任を感じていた者の割合、親が治療を受けていたと認識していた者の割合、ストレス対処力（SOC）の得点、親から過保護に扱われた認識（PBIの過保護得点）が有意に高かった。親に精神的問題がある場合、親が未治療で、子どもの自律性を尊重せず、親の問題に巻き込むような関わりをすると、子どもに精神的な問題を生じやすいことが示唆された。

（研究4）支援ツールの開発

研究1-3の所見と国内外の文献をもとにして、精神障害およびアディクションのある親とその子どもに対する支援に必要な基本的な要素を整理した。

1. 精神障害・アディクションやその影響の基本的な知識を伝えること。これにより、子ども自身や養育者を過度に責めることがなくなる。
2. 親子でのコミュニケーションをよいものにする。これにより、精神障害やアディクションやその他のことに関する気持ちを話せるようになる。また子どもとの絆を安定化させ、依存症の世代間連鎖を予防できる。
3. 同じ立場の子ども同士、また養育者同士のピアの交流を行うグループ活動
4. 子ども自身あるいは親自身が自分を大事にできるようになること。心身の調子を整えることを支援する。

これらの要素をもとにしたアディクションのある養育者とその子どもに対する心理教育の小冊子を作製した。作成した養育者用と、子ども用の小冊子の表紙と目次を図2、図3に示した。



図2 親用の小冊子の表紙と目次

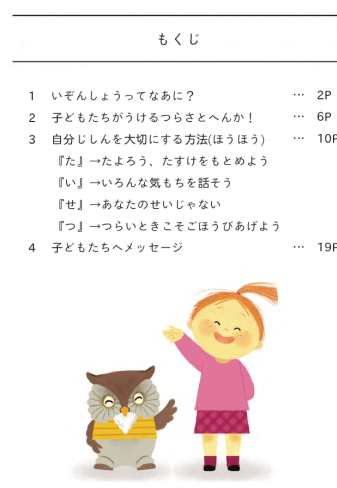


図3 子ども用の小冊子の表紙と目次

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 田中裕子、森田展彰、大谷保和、斎藤環、山口玲子、大橋洋綱、丹羽健太郎、櫻山豊夫	4. 巻 22
2. 論文標題 精神疾患がある養育者による児童虐待事例の特徴～全国児童相談所通告事例の調査データ～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 子どもの虐待とネグレクト	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 森田展彰、大谷保和、大橋洋綱、山口玲子、丹羽健太郎、新井清美、櫻山豊夫	4. 巻 55
2. 論文標題 全国の児童相談所に通告された子ども虐待事例におけるアルコール・薬物依存症の発生状況と依存症を伴う事例の特徴	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本アルコール薬物医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 森田展彰	4. 巻 16
2. 論文標題 加害者と共同作業を行うために必要なこと -DV・児童虐待の加害者を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本トラウマティック・ストレス学会誌	6. 最初と最後の頁 155-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 森田展彰	4. 巻 47
2. 論文標題 児童虐待加害者にどのように働きかけるか？ - リスク要因の評価と援助関係の確立を中心に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床精神医学	6. 最初と最後の頁 1011-1019
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田展彰	4. 巻 33
2. 論文標題 家庭内の暴力に対するオープンダイアログの応用	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 317-323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田展彰	4. 巻 36
2. 論文標題 アディクションのある人の家族の援助	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 家族心理学年報	6. 最初と最後の頁 84-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohashi Hirotsuna, Wada Ichiro, Yamaoka Yui, Nakajima-Yamaguchi Ryoko, Ogai Yasukazu, Morita Nobuaki	4. 巻 23
2. 論文標題 Cumulative risk effect of household dysfunction for child maltreatment after intensive intervention of the child protection system in Japan: a longitudinal analysis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Environmental Health and Preventive Medicine	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12199-018-0703-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森田展彰	4. 巻 33
2. 論文標題 家庭内の暴力に対するオープンダイアログの応用	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 317-323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田崎みどり、森田展彰、田口めぐみ、渡辺由佳、陶山寧子	4. 巻 119
2. 論文標題 児童相談所の精神科医の立場からみた児童虐待	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 634-640
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田展彰	4. 巻 46
2. 論文標題 ドメスティックバイオレンス加害者の心理とこれに対する教育プログラム	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 臨床精神医学	6. 最初と最後の頁 1117-1125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅野充、森田展彰、大谷保和、三井富美代、鳥山絵美、阿部幸枝、谷部陽子、角田三穂子、田中美歩、上岡楊江	4. 巻 52
2. 論文標題 依存症家族に対する子育て支援の現状と課題 関係者への質問紙調査から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本アルコール・薬物学会雑誌	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 1件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Chie Nitta, Nobuaki Morita, Tabuchi Yoshihiro, Murase Hanako.
2. 発表標題 Relationships between Childhood Parental Mental illness including addiction and Mental Health Problems in Adulthood.
3. 学会等名 Asia-Pacific Society for Alcohol and Addiction Research (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田淵賀裕
2. 発表標題 依存症患者の子どもに対する支援の実際
3. 学会等名 神奈川県精神保健福祉協会研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田淵賀裕
2. 発表標題 薬物依存症の治療過程でEMDRが必要となった医療少年院の症例
3. 学会等名 日本EMDR学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田淵賀裕
2. 発表標題 再発防止のための様々なプログラム：アルコール依存症治療病棟で開催している「こどもプログラム・思春期プログラム」の紹介
3. 学会等名 アルコール関連問題学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森田展彰、田中紀子、新井清美、川口由起子
2. 発表標題 ギャンブル障害が子育てに与える影響
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第24回学術集會おかやま大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森田展彰、近藤あゆみ、高橋郁絵
2. 発表標題 家族支援の総合的アプローチ
3. 学会等名 第一回関東甲信越アルコール関連問題学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 田淵賀裕	4. 発行年 2019年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 2
3. 書名 くらしの中の心理臨床 少年非行	

1. 著者名 森田展彰	4. 発行年 2019年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 11
3. 書名 (11) 森田展彰：物質使用障害に伴うさまざまなリスクとその対応 アディクションサイエンス 依存・嗜癖の科学	

1. 著者名 森田展彰	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 21
3. 書名 物質使用障害の治療 多様なニーズに応える治療・回復支援	

1. 著者名 森田展彰	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南山堂	5. 総ページ数 156
3. 書名 「はたらく」を支える！職場×依存症(編集：樋口 進、廣 尚典), アディクション, アディクションのある人の家族に対する支援	

1. 著者名 森田展彰	4. 発行年 2017年
2. 出版社 中山書店	5. 総ページ数 366
3. 書名 児童虐待における援助 加害者と被害者への支援, 外来精神科診療シリーズ part メンタルクリニックの果たすべき役割 精神医療からみた我が国の特徴と問題点、原田誠一編	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	福丸 由佳 (Fukumaru Yuka) (10334567)	白梅学園大学・子ども学部・教授(移行) (32808)	
研究分担者	大谷 保和 (Otani Yasukazu) (10399470)	筑波大学・医学医療系・助教 (12102)	
研究分担者	和田 一郎 (Wada Ichiro) (10711939)	花園大学・社会福祉学部・教授 (34313)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	新井 清美 (Arai Kiyomi) (50509700)	信州大学・学術研究院保健学系・准教授 (13601)	
研究分担者	村瀬 華子 (Murase Hanako) (40816089)	独立行政法人国立病院機構（久里浜医療センター臨床研究部）・その他部局等・その他 (82712)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	田淵 賀裕 (Tabuchi Yoshihiro)	成増厚生病院	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関